

「不易」と「流行」 誠実・克己・忠恕

～「あいさつ」、「挨拶」、「愛札」?・・・～

前号の通心(信)でよく「あいさつ」について発心(信)しましたが・・・親交のある先生に紹介してもらった濱口 誠先生(三重県中学国語教諭として4校勤務、その後管理職として3校勤務、教諭時代野球部顧問として勤務した4校すべてで県大会優勝、全国大会にも出場、2016年から「誠夢会」を主宰)の書かれた「先生の真実」(文芸社)で、「あいさつ」、「挨拶」とは・・・「愛札」であると述べておられます。

では、どうぞ。

挨拶はなぜしなければならないのか。私はいつも子どもたちにこうやってきた。

「命を守るため・・・」

命を守るために挨拶するってどういうことか?

子どもがどこかで倒れていた。

『この子は誰?』となるか『あ!この子はいつも元気に挨拶してくれる〇年生の〇〇ちゃんだ。』

となるかで、その後の対応のスピードが全然違って来るからだ。・・・

警察の生活安全課の人が言っていた。「犯人は挨拶されると犯行をためらう」って。空き巣は挨拶をよく交わす町を敬遠するそうだ。

30年前、私はA中に勤務していた。A中は挨拶で有名な学校だった。とにかく、学校を訪れるお客さんには全力で挨拶する学校だった。

ある日、チンピラ風の輩がクレームを言いに来てきた。鋭い目つきで肩で風を切る勢いで玄関まで来た。たまたま私は2階の廊下からその男を見つけた。「うあ!変な奴来た。また、生徒指導の俺の役目か・・・」ちょっとビビッていた。

すると、その場にいた部活終わりの女子ソフトテニス部とバレー部が通りかかった。その男に遭遇するなり、大勢で「こんにちはー」「こんにちはー」の嵐。全員がとびっきりの笑顔で信じられないくらい爽やかな「こんにちは」。

スリッパを履こうとしていたその男は、初めは怪訝そうな表情で無視していた。ところが、あまりにも彼女たちが何度も何度も笑顔で挨拶するので・・・だんだん男は表情が緩んでいき、遂に・・・

「おう、こんにちは」と挨拶を返して学校へ入っていった。

校長によると、校長室に入ると、彼は生徒の自転車マナーについてクレームを言いに来たのだが、結局・・・「ええ挨拶する学校や」などと褒めて帰っていったそうだ。

挨拶が人間を変えた瞬間を見た! やっぱ、挨拶は命を救うのだ。人の心をプラスにするのだ!

私は、挨拶は「愛札」だと思う。愛の札を配ること。

濱口 誠著「先生の真実」(文芸社)より

朝起きて、家族と、近所の人と、コンビニの店員さんと、学校で生徒と先生と、宅配の方と、業者の方と交わす挨拶。一体、毎日どれだけの人と触れあうのだろう。

気持ちよく「愛の札」を渡しているだろうか。「愛札」ができるかどうかは結局自分の心に影響する気がする。よく思われたいとか好かれたいとかではない。単に自分の心の健康。物理的な利益ではない。自分の心を喜ばせること。

挨拶は人より先にするもの。見返りは期待しない。ギブ&ギブ。挨拶は自分を高めるもの。

誰でも「愛の札」を無限に持っている。惜しみなくどんどん配っていこう!!